

令和7年度 第1回 溫海地域振興懇談会 会議録概要

○期　　日	令和7年9月11日（木） 午後2時～午後3時48分
○会　　場	鶴岡市温海庁舎 6階大会議室
○出席者	五十嵐 收一會長、佐藤 静夫委員、佐藤 宣夫委員、飯塚 厚司委員、三浦 英喜委員、佐藤 容介委員、荒井 千代子委員、五十嵐 美智委員、片岡 正孝委員、佐藤 智子委員、本間 真由美委員、五十嵐 潮委員、本間 久美委員（13名）
欠席者	佐々木 真人委員、野尻 晶委員（2名）
市側出席者	<p>【温海庁舎】</p> <p>高橋支所長</p> <p>（総務企画課）伊藤総務企画課長、佐藤課長補佐（兼）地域まちづくり企画調整主査、五十嵐総務企画専門員、尾形主事、本間まちづくり事業推進員</p> <p>（市民福祉課）剣持市民福祉課長、川村課長補佐</p> <p>（産業建設課）渡部産業建設課長、伊藤課長補佐</p> <p>【企画部】</p> <p>（地域振興課）鈴木地域振興課長、北山専門員、下本専門員</p>
○公開・非公開の別	公開
○傍聴者の人数	0名
○次　　第	<p>1. 開　　会</p> <p>2. あいさつ　　　　　　高橋支所長</p> <p>3. 委員紹介</p> <p>4. 会長・副会長の選出について</p> <p>5. 報　　告</p> <p>　　（1）令和6年度第2回温海地域振興懇談会で出された意見への対応について</p> <p style="text-align: right;">報告資料 1</p> <p>6. 意見交換等</p> <p>　　（1）令和7年度温海地域まちづくり未来事業について</p> <p style="text-align: right;">意見交換資料 1、1-2</p> <p>　　（2）第2次過疎計画の策定について 意見交換資料 2</p>

- (3) その他
7. その他
- ・地域公共交通計画の改定について（情報提供）
8. 閉　　会

4. 会長・副会長の選任について

会　長　五十嵐　收一　委員（温海地域自治会長会会長）
 副会長　佐藤　静夫　委員（温海町森林組合代表理事組合長）
 ※事務局提案により承認。

○委員発言の概要

5. 報　　告

五十嵐 收一 会長

(1) 令和6年度第2回温海地域振興懇談会で出された意見への対応について

- ・自治会長会議でも様々な意見等が出される。その場で解決できない項目もあるので、会議で出された意見への対応について、自治会長会議においても同様に対応状況等を報告いただきたい。

※欠席委員からの意見を代読

- ・地域未来塾について、通塾が難しい生徒に対し、オンライン配信を実施したとあるが、生徒の自宅にWi-Fi環境があつたため受講可能であった。ネット環境がない（スマホ等もない）家庭もあると思われる所以、受講希望する生徒が全員受講できるように通塾手段も含め検討してほしい。

五十嵐 收一 会長

- ・通塾困難者への支援拡充を図ると報告内容に記載されているので、欠席委員へ事務局から説明をお願いする。

6. 意見交換等

(1) 令和7年度温海地域まちづくり未来事業について

G委員

温海地域支え合い訪問活動事業について

- ・高齢者向けのフレイル予防など事業を実施しているようだが、その参加率はどのくらいか。また、参加者の交流が出来ているのか。

剣持市民福祉課長

- ・参加者は、安土集落9名、鍋倉集落6名、越沢集落18名、小名部集落8名参加しており、安土集落は2回目を実施しており、軽体操に7名参加している。参加者から「面白かった」との声があり、回数を重ねるごとに参加者の満足度も高まっている。今後、外出支援として、市の施設見学や買い物バスなども企画している。

G委員	<ul style="list-style-type: none"> 事業を継続して実施し、温海地域に住んでいてよかったと思えるようになるとよい。高齢者が子どもに昔の遊びを教えるなど、世代間交流も取り入れるなど事業に変化を持たせ継続していけるような工夫をお願いしたい。
D委員	<p>温海地域支え合い訪問活動事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業予算が少ないのでないか、事業の充実をお願いしたい。
剣持市民福祉課長	<ul style="list-style-type: none"> 現在は、行政主導で事業を実施しており、公民館の借上料を予算化している。過度な費用をかけずに集落独自で続けられる形を重視しており、市の保健師が出向いて保健指導するなど、できるだけ少ない予算で実施できるように工夫している。
G委員	<p>現道の駅と新道の駅について</p> <ul style="list-style-type: none"> 現道の駅あつみのしゃりんのイベント情報の周知について、より効果的な方法を検討していただきたい。来訪者が「今日はこんなイベントがあるなら寄つてみよう」と思えるような情報発信の工夫が必要と考える。また、地元の方々にも積極的にイベントに参加してもらえるよう、地域に密着した広報のあり方を見直ししてほしい。 現道の駅は海の近く好評だが、新しい道の駅は少し海から離れるため、海とのつながりを感じられる工夫や周辺の魅力を案内する大きな看板を設置して、海を含む楽しめるスポットなどの案内や情報発信し、来訪者が周辺にも足を運び地域全体の経済効果が広がる工夫をしてほしい。
渡部産業建設課長	<ul style="list-style-type: none"> 現道の駅のイベント周知方法については、クアポリス温海へ伝える。 現在進めている道の駅あつみ移転整備事業におけるソフト事業については、今後検討を進めていく。事業主体である㈱夕陽コミュニティに企画を依頼しており、市も参画しながら検討を行う予定でいる。施設テーマである「日本海の自然と食のテーマパーク」に沿い、海に関する要素も企画に盛り込んでいきたい。
E委員	<p>温海地域教育環境充実事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域おこし協力隊の任期が今年度で終了するが、未来塾、自習カフェなど、来年度も同様のサポートを行う協力隊を募集する予定はあるのか。現在の協力隊員の活躍に感謝しつつ、少子高齢化の中で子育て支援や過疎地での学力格差の是正が重要であり、子どもたちの学ぶ機会や意欲を高める取組をさらに進めてほしい。また、大学生など地域に縁のある若者が、子どもたちを支援する活動を拡充してほしい。

伊藤総務企画課長

・現在の地域おこし協力隊は来年4月で任期満了となるが、現時点では新たな募集予定はない。今後も鈴木けいさんに引き続き未来塾のサポートをお願いしたいと考えており、未来塾自体は継続予定。その後の体制については今後検討していく。

K委員**現道の駅等の情報発信について**

・マリンパークに固定カメラを設置し、弁天島の夕日などをYouTubeで配信することは可能か。また、YouTubeでイベント情報を発信することについて、技術面や予算面で厳しいのか、また検討の有無は。

渡部産業建設課長

・鼠ヶ関の海のライブ映像配信については現在検討中で、カメラ設置場所や運営主体、周辺に市の施設がないため借用先などを含め調整している。今後は寄せられた意見も踏まえ、地域まちづくり未来事業として実施可能かも含めて検討を進めていく。

A委員**敬老会事業について**

・自治会で敬老会の際に商品券を配っているところがあるが、市が75歳以上に一人あたり1,100円の補助金を出しているようだが、商品券を配ることにどのような意味や目的があるのか。

剣持市民福祉課長

・敬老会は、9～10月にかけて多くの地域で開催されており、27集落のうち6集落は開催せず、代わりにお祝いの品やお祝膳を配っている。それ以外の集落では、コロナ前と同様に宴席を設けて実施している。商品券配布の是非については、各集落の判断によるもので、市としては関与しない。

A委員**温海地域家族まるごと移住体験事業について**

・移住体験事業について、同様の企画を行っている旅行代理店と連携しているのか。また、移住促進において具体的なメリットがあるのか、市長が述べた「高校生まで医療費無料」という施策が実際に移住の利点となっているのか。

伊藤総務企画課長

・保育園留学は（株）キッチハイクの商標登録によるもので、旅行会社は関与していない。企業が募集ページを作成し、鶴岡市での暮らし体験の紹介と市へ送客していただいている。担当企業自体が旅行業の資格を持つため、別の旅行会社は関わっていない。事業の目的は、温海地域のファンを増やすことにある。

鈴木地域振興課長

・市に移住する特典としては、まず高校生までの医療費無料がある。また、国の制度により、首都圏からの移住者には条件付きで60万～100万円、子育て世帯の場合はさらに加算される支援金がある。市独自の取組としては、令和7

年度から特産品を活用した「食の支援」を実施しており、U ターン者も対象。8 月号の広報で移住施策の特集を掲載している。

五十嵐 收一 会長

・中学生の人数が大幅に減少しており、今後もその傾向が続く見込み。野球や男子バスケット、女子バレーなどでは廃部や他校との連合チームで中体連などに出場している状況。保育園留学は順調で、高校生を対象とした留学制度を導入する自治体もあることから、温海地域として中学生向け留学制度を検討してもよいのではないか

伊藤総務企画課長

・現状は、限られた人員で保育園留学に注力し、まず実績を積み上げることを優先している。中学生や高校生向けの留学制度は、将来的な課題として検討する段階である。

鈴木地域振興課長

・高校生を対象とした「地域みらい留学」が全国的に進んでおり、市でも加茂水産高等学校や庄内農業高等学校と協力して検討中。加茂水産高等学校は、地域みらい留学フェア等の視察も行き、市として協力する段階である。中学校については、まだ検討していない。

K 委員

温海地域生きる力を育む教育推進事業について

・SEL を取り入れた温海地域の取組はとても良いので、このまま進めてほしい。一方で「事業評価の数値化が難しい」という点について、ここで言う「数値化」とは何を指しているのか。具体的には、「生きる力」を「人間関係を築く力」「主体的に取り組む力」などを数値で示すことが難しいという意味なのか、それとも、事業全体を評価するための基準・標準を数値で設定することが難しいという意味なのか、その「数値化」という言葉の意図を確認したい

伊藤総務企画課長

・この事業は、特色ある教育に取り組むことで子育て世代から支持されることを目的としている。しかし、成果目標を具体的に数値で定めるのは難しく、子どもの能力などを数値化する想定はしていない。
例えば「特色ある教育に魅力を感じて移住する家族が 1 組 2 組出る」といった成果を目標にできれば理想だが、現時点ではそこまで具体的な数値目標を設定できていないため、「数値化が難しい」としている。

K 委員

・非認知領域というのは結局測定ができないから非認知という言葉が付いている。非認知能力は本来測定が難しいが、質問手法を用いたアセスメントテストによって、子どもの協調性や自己コントロール力などをある程度数値化できる。この事業を行う以上、子どもたちに変化が見られることが重要であり、そのためには、児童・生徒が自分の強み・弱みを理解することが必要。

アセスメントテストの結果を教師が面談などで活用すれば、適切な助言や支援ができ、子どもの成長を促せる。役場もその変化を指標として事業の効果を把握できる。高校生向けにはすでに一般化されており、小中学生向けのものがあれば子どもたちの力を把握するのに役立つと考える。

伊藤総務企画課長

・子どもの変化が明確に見えるようになれば、保護者など周囲にも特色ある教育の成果が伝わりやすくなると感じた。今後、その「見える化」に向けて検討していきたい。

B委員

農業と林業の振興について

・森林組合が久しぶりに配当を出したのは、良い人材を雇用し組織をうまく運営した成果であり、地域の森林資源には今後の発展の可能性があると考える。今後は、行政と森林組合がどのように連携して担い手を育成しているのか、また森林資源活用に関する広報活動を行政がどのように行っているのか

・温海地域の稻作は、平場に比べ条件的に不利だが、水質が良く食味の優れた米が取れる強みがある。一方で、農業の担い手不足が深刻で、今後人口減少により農地維持が難しくなる見通し。そのため、中山間地域での基盤整備によって効率的に農地を守ることであり、これは地下水保全や流域の環境維持にもつながる。林業と農業は大きく関係しており非常に大きな要素を含む産業かと考えている。焼き畑や越沢三角そばなども高齢化が進んでおり、越沢三角そばは作付面積が増えているが生産量が伸び悩んでいる現状で、対策をしていかないと過疎化や地域力の低下を招く。したがって、森林資源と農業を軸に地域の衰退を防ぐことが最も重要と考える。

渡部産業建設課長

・行政は温海町森林組合や地域の小学校と連携し、森林教育を実施している。その内容として、小学生が焼畑あつみかぶの栽培や竹の伐採・加工などを体験し、森林に親しむ教育活動を行っていることを紹介。

A委員

・雇用の件だが、国の「緑の雇用」制度により、新入社員を3年間国の支援で育成しており、森林組合でも人材確保を進めている。

また、5月から11月まで毎月開催している「フォレストフィールドセミナー(FNS)」では、森を活用した学びや体験を行い、将来的には○○会社の森などとし、企業の社員研修などに利用していただき、収益拡大にもつなげたいと考えている。

さらに、個人の考えだが、山中を歩くスポーツ「オリエンテーリング」の常設コースを作り大会を開くなど、地域の特色を生かした事業を実施できるとい。

H委員**地域振興懇談会の役割と地域医療・公共交通について**

- ・地域振興懇談会の委員の役割は、市の事業について質問・評価するだけでなく、委員全体で「この地域をより良くしていくにはどうすればよいか」を考える場であるべきだと考えている。
- ・温海地域は自然や人の魅力にあふれているが、人口減少と高齢化が進んでいるのが残念である。高齢化が進む中で必要なのは医療機関と公共交通の充実であり、特に免許返納後も移動できる環境を整えてほしい。
- ・体育協会で新しいイベントを企画しており、その周知に防災無線を活用できるかどうかを確認したい。

剣持市民福祉課長

- ・令和5年に地域の阿部医院が閉院したが、その後は山北徳洲会病院が一部機能を補っており、送迎付き受診のPRなど行政も協力した経緯がある。新たな医療機関の誘致は鶴岡旧市内でも難しく、市全体での対応が望ましいが、現状では実現が難しい。

伊藤総務企画課長

- ・イベントの周知に防災無線を活用できるかについては、個別のご相談とさせていただく。

五十嵐 收一會長

- ・公共交通については、この後に地域公共交通計画の改定の説明があるので、その際に意見があれば出してほしい。

B委員**高齢者の買い物支援について**

- ・以前は週3回来ていた移動販売車が事故で1台減り、現在は週1回のみの運行となっている。高齢者の買い物機会が限られており、週2~3回来てほしいという声がある。行政として、地域内の移動販売の実態を把握し、買い物難民の解消にどう貢献しているかを確認することが重要だと思う。

剣持市民福祉課長

- ・高齢者の買い物支援については、温海地域包括支援センターの生活支援コーディネーターが各集落を調査しており、行政も一定の把握をしている。ただし福祉バスでの買い物支援は難しく、温海福祉会の「楽々バス」など既存の支援を活用・周知する必要がある。今回の意見は温海地域包括支援センターとも共有する。

J委員**移住（Uターン）支援について**

- ・移住やUターン支援は事前登録が必要で、帰郷後では受けられない支援メニューもあることを知らなかった。移住やUターンを考えている人に支援情報が届きにくい、必要な人に届いていないと感じた。

**五十嵐 收一
会長**

・移住支援を受けるには、帰郷前の手続きが必要と言われているが、帰ってきてからも支援できる仕組みを検討すべきだと考える。地域外の人には情報が届きにくいため、その点も今後の課題として行政に検討をお願いしたい。

**佐藤総務企画課長
補佐**

温海地域支援ネットワーク推進事業について

※欠席委員からの質問を代読

・温海地域の若者に向けたワークショップや交流会を開催しているが、課題として若者のネットワーク形成に至っていないとある。若者のネットワークの形成とはどのようなことを想定しているか。

伊藤総務企画課長

・昔、温海地域にあった連合青年団のようなネットワークをイメージしており、実現は難しいが、それを目標としている。

(2) 第2次過疎計画の策定について

**五十嵐 收一
会長**

・温海地域の過疎計画と言えば、以前は各集落単位の施設整備とか道路・林道・消防設備の整備などに有利な財源制度として過疎対策事業債を活用し、積極的に取り組んでいたと記憶している。過疎計画のメリットや、過疎対策事業債を活用した具体的な事業について最近の地域振興懇談会ではあまり聞いていない。資料には、市過疎計画における実施すべき施策が12項目あるようだが、今後の懇談会で、計画の内容や実施施策について示す予定があるか。

**北山地域振興課
専門員**

・懇談会では具体的な事業の紹介はできていなかったが、第一次過疎計画には道路整備、ふれあいセンター管理、道の駅整備などの事業が記載されている。
・第2次過疎計画は、次回の懇談会で計画の素案を提示できるようにしたい。